

江南ロータリークラブ

Weekly Report

2026-27



持続可能なインパクトを生み出そう

創立 / 1965年5月22日
例会日/ 毎週木曜日 PM12:30~
会場 / 江南商工会館1F 大ホール
江南市古知野町小金112
0587-54-8132

事務局/ 江南商工会館 別館1F
TEL / 0587-55-6554
FAX / 0587-59-7720
URL / <https://www.kounan-rc.com/>
Mail / kounanrc@beach.ocn.ne.jp
会長/近藤 道磨 幹事/佐藤 弘夫 会報委員長/青山 英明



2026年(令和8年) 9月17日(木)晴れ 第2885回(当年度第9回)例会

点 鐘 会長 近藤 道磨 君

司 会 SAA 南村 朋幸 君

ロータリーソング斉唱 「日も風も星も」 ソングリーダー 濱島 聡一郎 君

四つのテスト斉唱 尾関 育良 君

— 言行はこれに照らしてから —

1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

ゲスト及びビジター紹介



国際ロータリー第2760地区東尾張分区 ガバナー補佐
岡田 雅隆 様



国際ロータリー第2760地区 地区副幹事
松宮 博明 様



国際ロータリー第2760地区東尾張分区 分区幹事
谷定 貴之 様



皆さま、こんにちは。

本日は、国際ロータリー第 2760 地区・東尾張分区ガバナー補佐の岡田雅隆様、そして地区副幹事の松宮弘明様、分区幹事の谷定貴之様におかれましては、ご多忙の中、江南ロータリークラブの例会にお越しいただき、誠にありがとうございます。クラブを代表し、心より歓迎と御礼を申し上げます。本日、例会に先立ちまして開催いたしました会長・幹事懇談会では、岡田ガバナー補佐より、限られた時間ではありましたが、大変有意義で、クラブの進むべき道を確認する素晴らしい機会となりました。重ねて感謝申し上げます。

さて、今年度は「ロータリーを楽しもう！和敬清寂の心で」と掲げ、ビロギング、帰属意識を育むよう活動を進めてきて、2ヶ月半が過ぎました。皆さん、例会・奉仕活動・親睦活動などロータリーを楽しんでおられるでしょうか。そして江南ロータリークラブが素敵な居場所になっているでしょうか。以前、お話しした「インクルージョン」と「随処作主」、全ての人が大切にされ、一人ひとりが主となる居心地のよいクラブとなっているのでしょうか。

7月下旬に会員増強委員長の内田君が会員満足度アンケートを取り、集約されました。「大変満足している・満足している」が79%、「普通」が18%という結果でした。回答率が70%でしたので満足度が高いと評価するのは早急かもしれませんが、雰囲気の良いクラブであることは会員の皆様の様子から感じ取ることができます。

高潔さも兼ね備えたクラブだと思いますが、国府谷ガバナーは地区方針に「元気で、なかよく、楽しく、そして高潔に」とあえて「高潔さ」を付加して述べられています。茶道の精神である「和敬清寂」は高潔さを実践するための具体的なアプローチの一つだと思います。これからも仲良く、互いに尊重し合って、清らかに活動を楽しんでいきたいですね。

今日はもう一つ茶道の精神を紹介させていただきます。「一期一会」です。広く知られた名言だと思いますが、実はこれ、江戸幕府の大老、井伊直弼が茶道について示した言葉です。井伊直弼は歴史上、桜田門外の変で有名ですが、優れた茶人でもありました。

彼は「茶湯一会集」という書物の中で「今、この時、この場は一生に一度の出会いと心得て、心をこめて人と触れ合いましょう」といった内容のことを述べています。たとえ同じ場所、同じ顔ぶれであっても、今日の会は以前の会と決して同じものではありません。諸行無常、一時として同じ状態のものはなく、一切のものは常に変化しています。だからこそ、この時、この場所、この出会いを大切にしましょうと述べています。

ロータリークラブも同じようなことが言えるのではないのでしょうか。岡田ガバナー補佐を迎えての例会は今日、この商工会館で、このメンバーで一生に一度の出会いであると心得て、大切にしたいですね。もう二度と出会えないということではありません。次の出会いは今日の出会いとは違ったものになるでしょう。

今日、今を大切にして、ロータリーを楽しみましょう。

一期一会

幹事報告 -別紙-

幹事 佐藤 弘夫 君

出席報告

例会運営委員 菊 貴世 君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
54名	40名	14名	78.43%

国際ロータリー第 2760 地区東尾張分区 ガバナー補佐 岡田 雅隆 様
国際ロータリー第 2760 地区東尾張分区 分区幹事 谷定 貴之 様
本日お世話になります。色々勉強させて下さい。宜しくお願い致します。

国際ロータリー第 2760 地区 地区副幹事 松宮 博明 様
ガバナー補佐訪問で参りました。よろしくお願い致します。

近藤 道磨 君、木本 寛 君、佐藤 弘夫 君、田中 健 君
東尾張分区 ガバナー補佐 岡田 雅隆様 地区副幹事 松宮弘明様、分区幹事 谷定 貴之様
ようこそ江南ロータリークラブへ 本日の卓話、よろしくお願い致します。

森 弘好 君、岩井 正彦 君、倉知 正憲 君、松岡 一成 君、古田 嘉旦 君、富永 典夫 君、伊藤 靖祐 君、
沢田 昌久 君、片平 博己 君、岩田 静夫 君、長瀬 晴義 君、中村 耕司 君、尾関 育良 君、永田 広光 君、
三輪 慎一郎 君
東尾張分区 ガバナー補佐 岡田 雅隆様 地区副幹事 松宮弘明様、分区幹事 谷定 貴之様
おかえりなさい！！ようこそ江南ロータリークラブへ

伊藤 かね子君
東海テレビの特番でさんきが紹介されました。

卓話 「ガバナー補佐訪問」



国際ロータリー第2760地区
東尾張分区 ガバナー補佐
岡田 雅隆 様

皆さま、本日はお時間をいただきありがとうございます。
2026-27 年度、RI 第 2760 地区、東尾張分区ガバナー補佐訪問としてお話しします、犬山ロータリークラブの岡田雅隆です。本日は、RI 会長メッセージと第 2760 地区方針を、各クラブの一年の行動につながる形で共有いたします。

13 枚のスライドがありますが、資料を順に読む時間ではなく、「私たちは、今年何を残すのか」という問いを、皆さまと一緒に確認する時間にしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

RI 会長メッセージ

今年度のテーマは、オンラインカ・H・ババロラ RI 会長による「持続可能なインパクトを生み出そう」CREATE LASTING IMPACT です。最新のメッセージでは、私たちロータリー会員は、文化、言語、地域社会を超えて手を取りあい、変化をもたらすだけでなく、その変化が持続する責任を分かち合う、と語られています。ここで大切なのは、単に良い事業を行うことではありません。地域社会と連携し、人びとのスキルとリーダーシップを高め、その進展を確かめること。そして、プロジェクトが終わった後にも、地域社会と自分自身の中に良い変化が残ることです。私たちは熱心であるほど、行事が無事に終わった時点で安心しがちです。しかし本当に問われるのは、そのあとです。誰の行動が変わったのか。どんな関係が残ったのか。次年度にも引き継げる仕組みになったのか。つまりこのテーマは、事業数を増やす合図ではなく、成果の残り方を問う合図です。

2026-27 年度 RI 会長方針

この言葉を少し分けて考えます。「手を取りあおう」、UNITE は手段です。一人の善意だけでは届かない場所に、クラブ、地域、世界がつながることで近づいていく。「よいこと」、GOOD は目標です。活動を増やすことではなく、地域にとって本当に価値ある成果へ向かうことです。「生み出そう」、CREATE には、待つのではなく、私たち自身が変化をつくる姿勢があります。そして LASTING IMPACT は、年度を越えて、次の世代に残る価値です。活動とインパクトは同じではありません。活動は実施した時点で終わることがあります。しかしインパクトは、人の考え方、クラブの雰囲気、地域の関係性の中に残ります。ババロラ会長は、自分自身の中に持続可能な変化を生み出しているだろうか、と問いかけています。これは静かですが厳しい問いです。奉仕に慣れすぎているのか。会員増強を人数だけの話にしていらないか。親睦を内輪の安心だけにしていけないか。RI の最新メッセージでは、2030 年までの会員基盤拡大にも触れていますが、同時に「大切なのは人」と明確に語られています。入会候補者は、数字の前に、私たちの姿、例会の空気、奉仕に向かう表情を見えています。だからこそ、この一年は「何をしたか」だけでなく、「何が残ったか」を確認する一年にしたいと思います。

2026-27 年度第 2760 地区方針

続いて、第 2760 國府谷俊盛ガバナリーの地区方針です。「元気で、なかよく、楽しく、そして高潔に」親しみやすい言葉ですが、決して軽い言葉ではありません。「元気で」とは、声大きいことではなく、職業人として自らの仕事をしっかり全うすることです。品質、約束、説明責任、誠実さを守ることが、地域の元気を支えます。「なかよく」とは、馴れ合いではなく、互いの違いを認め、クラブの内外に温かな関係をつくることです。「楽しく」とは、義務感だけでなく、参加する喜びを奉仕の燃料にすることです。そして「高潔に」。ここがロータリーらしさの核心です。

四つのテストを土台に、行動に品格を添える。新たな視点からの挑戦とは、伝統を壊すことではなく、大切な核を守りながら、今の地域、今の会員、今の子どもたちに届く形へ整えることです。この方針を、会議資料の中だけに置いておくのではなく、例会の空気、新会員の迎え方、奉仕活動の設計、日々の職業生活の中に置きたいと思います。クラブを叱る言葉ではなく、クラブを整える言葉として受け止めたいと思います。

日本の子どもたちのために

ここからは「日本の子どもたちのために」という柱に入ります。スライドには、子どもの権利条約の四つの原則が示されています。差別の禁止、子どもの最善の利益、生きる、育つ権利、子どもの意見の尊重です。大人がよかれと思うことが、必ずしも子どもの最善とは限りません。支援する側の満足が、支援される側の安心と一致するとも限りません。だからこそ、子どもの声、尊厳、権利を中心に置く必要があります。子どもは未来の担い手である前に、今を生きている一人の人間です。その尊厳を守ることが、ロータリーの子ども支援の出発点になります。そしてこの考え方は、四つのテストにも響き合います。真実か、公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるか。子ども支援を考えるとときにも、この四つはそのまま私たちの物差しになります。

小中学生自殺者の推移

このスライドは、小中高生の自殺者数の推移です。令和 6 年の小中高生の自殺者数は合計 529 人。資料では過去最多と示されています。内訳は、小学生 15 人、中学生 163 人、高校生 351 人です。この数字のあとに、少し間を置きたいと思います。529 という数字の一つひとつに、名前があり、家族があり、学校があり、地域がありました。ロータリーだけでこの問題を解決できるとは言えません。しかし、できることはあります。家庭と学校以外にも安心して関われる場所を増やすこと。相談できる大人を一人でも増やすこと。学校、行政、専門機関、NPO をつなぐこと。子どもの変化に気づく目を、地域の大人が持つことです。原因を決めつけるより先に、子どもたちが安心して声を出せる地域であるかを問うこと。その一つひとつが、派手ではなくても、命に近い奉仕です。

G7 各国の自殺死亡率

次のスライドは、G7 各国の自殺死亡率です。人口 10 万人あたりで見ると、日本は 16.5 と示され、G7 の中でも高い水準にあります。女性では日本が 10.8 と、他の G7 諸国より高い数字です。この比較は、どの国が良い、悪いという順位表ではありません。私たちの社会を映す鏡です。経済的に豊かであることと、人の心が安心して同じではありません。便利な社会であることと、孤立しない社会であることも同じではありません。医療や相談機関につなぐことは重要です。同時に、日常の中で声をかける、変化に気づく、相談先を知っている、偏見を持たない。そうした地域の基礎体力を高めるところに、ロータリーの役割があります。世界を見て、足元の一人に戻る。国際組織であり、地域に根を張る私たちだからこそできる視点です。

児童虐待相談対応件数の推移

三つ目のグラフは、児童虐待相談対応件数の推移です。令和 6 年度の相談対応件数は 223,691 件と示されています。この数字を見て、単純に誰かを責める話にははいけません。相談件数の増加には、社会が問題を見つけやすくなった面もあります。一方で、相談を必要とする子どもや家庭がこれだけ存在していることは、重く受け止めなければなりません。背景には、家庭の孤立、貧困、子育ての不安、保護者の疲弊、地域のつながりの弱まりがあります。子どもを守ることは、保護者を支えることでもあります。追い詰められた家庭を孤立させたまま、子どもだけを救うことはできません。ロータリーの強みは、行政、学校、NPO、医療、企業をつなぐ力です。相手を弱者として固定するのではなく、その人がもう一度力を取り戻す関係をつくること。継続できる関係を残すこと。それが持続可能なインパクトです。

青少年、職業人の育成と平和構築

続いて、青少年、職業人の育成と平和構築です。このスライドでは、各委員会のさらなる発展、七つの重点分野以外の研究にも対応する新たな留学生補助制度、そして第 30 回 RI 日本青少年交換研究会・愛知会議の開催が示されています。予定は 2027 年 6 月 12 日、13 日です。ロータリーには、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLA、財団奨学金、米山記念奨学、平和フェローシップなど、若い世代を育てる入口があります。名前は別々でも、根は一つです。若い人が自分の可能性を信じ、違いを理解し、職業を通じて社会に貢献し、平和をつくる人材へ育つことです。便覧では、地区予算の大きな部分が青少年育成など人材育成に向けられていることも示されています。これは費用配分ではなく、未来への意思表示です。平和は遠い会議場だけで生まれるものではありません。例会で語る職業経験、学生を招く一回の機会、海外から来た若者を地域で迎える一つの家庭、その積み重ねが未来への投資になります。成果が見えるまで時間はかかります。しかし 10 年後、20 年後に地域を支える人材が育つなら、それは最も確かなインパクトの一つです。

ロータリー・ドネーション・フェスタ（RDF）

次は、ロータリー・ドネーション・フェスタ、RDF です。ここには二つの方向性があります。一つはポリオ根絶です。LAST MILE、最後の一步を完遂し、ワクチン接種だけでなく監視活動、サーベイランスを続けることが重要です。最新の RI 会長メッセージでも、ポリオ根絶という世界との約束は今も変わらないと語られています。もう一つは、疲弊する日本子どもたちへの支援です。寄付というと金額が先に立ちますが、ドネーションの本質は競争ではありません。目的に名乗りを上げることです。便覧には、学校設立のための募金に、年老いた農夫が自分の二ドルを差し出した話が紹介されています。金額の大小ではなく、目的のために自分にできる精一杯を差し出す。その精神が原点です。年次基金 150 ドル、ポリオプラス基金 30 ドル、恒久基金 20 ドル。数字は目安、目的は羅針盤です。同時に、寄付をお願いする側には説明責任があります。何に使われ、どのような価値を生み、どのように未来へつなげるのか。そこを丁寧に共有するとき、寄付は義務ではなく、奉仕になります。

クラブ奉仕・危機管理

次に、クラブ奉仕と危機管理です。クラブを愛し、会員同士の親睦を深め、対外的にもオープンで、ホスピタリティの高い雰囲気をつくること。

これはすべての活動の土台です。どれほど立派な奉仕活動でも、クラブの中に温かさがないければ会員は続きません。外から来た人が歓迎されていると感じがなければ、新しい仲間も増えません。開かれた親睦は、会員増強の土台でもあります。一方で、危機管理も欠かせません。法令遵守、COMPLIANCE は、ロータリアンにとって最低基準です。特に青少年に関わる活動では、安全管理、個人情報、ハラスメント、会計、SNS、移動時の事故など、注意すべき点が多くあります。危機管理は、活動を止めるためのブレーキではありません。安心して活動を広げ、参加者とクラブの信頼を守るための土台です。信頼は一日にして生まれませんが、一つの不注意で失われることがあります。だからこそ、高潔さを日々の運営に落とし込みたいと思います。

第 2760 地区メンバー数

ここで、地区のメンバー数を確認します。第 2760 地区は 84 クラブ、4,648 名です。東尾張分区は 12 クラブ、430 名で、地区内では 6 番目の規模です。この数字は、競争の順位表ではありません。地域の仲間の広がりを示す地図です。大きい分区には大きい役割があり、小さい分区には顔の見える機動力があります。大切なのは、数字の大小ではなく、そこにいる一人ひとりが、クラブに居場所と出番を持てるかどうかです。新しい会員、若い会員、異なる職業や背景を持つ会員が、「ここにいてよい」と感じられるかどうか。会員増強もまた、数を追う前に、迎え入れる空気を整えることから始まります。

行事予定

最後に、主な行事予定です。ガバナー公式訪問は、クールビズ対応でお願いいたします。地区大会は 2026 年 11 月 14 日（土）、エスパionaゴヤキャッスル。IM は 2027 年 3 月 5 日（金）、名鉄小牧ホテル。RDF は 2027 年 5 月 8 日（土）、9 日（日）、エディオン久屋広場、エンゼル広場。そしてロータリー国際大会は 2027 年 6 月 26 日（土）から 30 日（水）まで、スペインのバルセロナで開催され、登録は 2026 年 9 月開始予定です。行事は、予定表に載っている日付であると同時に、クラブが互いにつながり、学び、奉仕の力を持ち寄る機会です。本日の話を一言でまとめるなら、持続可能なインパクトは、自分自身の変化から始まる、ということです。元気で、なかよく、楽しく、そして高潔に。子どもたちを守り、若い世代を育て、寄付を通じて世界と地域を支え、温かく開かれたクラブをつくる。最後に各クラブで一つだけ問いをお持ち帰りください。「今年、私たちのクラブは、何を一つ残すのか」。小さな行動でも、続けばクラブの文化になります。クラブの文化になれば、年度を越えて残ります。その問いが行動に変わったとき、次の一年が始まります。ありがとうございました。

点鐘 会長 近藤 道磨 君

本日の食事



（担当：会報委員会 安部 聡司）